

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02836

研究課題名（和文）歴史学習・メタ歴史学習の有機的関連と段階的展開に基づく歴史実践教育

研究課題名（英文）A Study on Meta-History Studies with Relation to History Studies in Primary and Secondary History Education

研究代表者

服部 一秀（HATTORI, Kazuhide）

山梨大学・大学院総合研究部・教授

研究者番号：60238029

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、社会に開かれた歴史教育を実現し、歴史教育の教育的社会的意義を拡大するため、社会の中の広義の歴史に関するメタ歴史学習は初等・中等歴史教育の各単元レベルとカリキュラム全体レベルにおいてどうありうるかという課題の究明に取り組んだ。メタ歴史学習を初等歴史教育においてどのように始めることができるか、中等歴史教育においてどこまで進めることができるかについて、また、メタ歴史学習を初等歴史教育と中等歴史教育においてどのように段階的に高めることができるかについて、事例の分析や授業の開発を通して理論的に具体的に明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、過去の事柄について取り組む歴史学習と、過去の事柄を扱う社会の中の歴史について取り組むメタ歴史学習との関連について明らかにしたこと、初等教育（小学校中学年）においてメタ歴史学習を開始するための方略、中等教育における社会認識教育・社会形成教育としてのメタ歴史学習の方略について明らかにしたこと、初等教育を通じての、また中等教育を通じてのメタ歴史学習の段階的な重点設定について明らかにしたこと、これらによってメタ歴史学習の実現可能性を高めるとともに、社会に開かれた歴史教育の新たな在り方について提起したことである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify how meta-history studies on history in society can be formed at the unit level and at the curriculum level in primary and secondary history education, in order to achieve history education open to society. This study explores the principles for constructing meta-history studies with relation to history studies in primary history classes / secondary history classes, and the principles for placing meta-history studies in the respective curricula of primary and secondary history education.

研究分野：社会科教育、歴史教育

キーワード：メタ歴史 パブリック歴史 歴史文化 歴史教育 歴史授業 社会科 レリバンス ドイツ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

歴史教育の改革研究が積み重ねられてきた。尤も、その殆どは過去について取り組むヒストリー学習の枠内での改革研究となっており、歴史教育における現在との関連化において限界があった。過去を扱った既存の歴史について取り組むメタヒストリー学習の研究も存在しないわけではない。けれども、大部分は専門家のアカデミックな領域における歴史について分析検討するメタヒストリー学習の提起に留まっていた。

そのような状況を打開すべく、歴史マンガ、歴史映画、歴史小説、歴史祭り、歴史展示、記念碑、記念日、記念行事、記念演説など、現在の一般の人々のパブリックな領域における歴史について分析検討するメタヒストリー学習の研究が研究代表者らによって展開されてきた(例えば、服部一秀研究代表「現代社会における『歴史の文化』の探究力を育成する中等歴史教育の開発研究」2014～2018年度科研費研究・基盤研究(C)、ほか)。とはいえ、2つの点で大きな課題がのこされていた。

その1つは、そのような新たなメタヒストリー学習の基本的な意義や方略は検討されてきたものの、各単元においてメタヒストリー学習を展開させる上でのヒストリー学習との関連づけ方が十分に明らかにされていないことである。もう1つは、中等歴史教育における授業レベルに考察の中心がおかれていて、初等歴史教育から中等歴史教育にわたるカリキュラムレベルにおけるメタヒストリー学習の位置づけ方が十分に検討されていないことである。これらの点により、パブリックな領域の歴史に関するメタヒストリー学習は歴史教育実践上においての実現可能性が必ずしも高くないものに留まっていた。

2. 研究の目的

本研究は、社会に開かれた歴史教育の実現に向け、一般の人々のパブリックな領域における広義の歴史に関するメタヒストリー学習の実現可能性を高めるべく、2つの問いに取り組み、その理論的基盤を整備するものである。2つの問いとは、初等歴史教育や中等歴史教育においてメタヒストリー学習をヒストリー学習とどう関連づけて行うことができるか、初等・中等歴史教育にわたってメタヒストリー学習の重点課題をどう段階づけることができるかというものである。本研究では、単元におけるヒストリー学習との関連という面と、カリキュラムにおける展開という面の両面において、初等・中等歴史教育におけるメタヒストリー学習のあり方を理論的・具体的に明らかにすることをめざした。

3. 研究の方法

本研究は2019年度から2022年度までの4カ年にわたって展開された。前半(2019年度・2020年度)では、主として、初等歴史教育・中等歴史教育におけるメタヒストリー学習とヒストリー学習の有機的な関連づけ方について検討した。後半(2021年度・2022年度)では、主として、初等歴史教育・中等歴史教育におけるメタヒストリー学習の段階的な位置づけ方について検討した。それらのため、日本の社会科・地理歴史科学学習指導要領の分析、ドイツ諸州の学習指導要領と先進的な初等・中等歴史教育における授業・教科書等の調査分析、及び、初等歴史教育・中等歴史教育それぞれにおけるメタヒストリー学習の授業事例開発に取り組んだ。なお、授業事例開発にあたって、山梨県内の学校教諭や山梨大学教職大学院の大学院生の協力を得た。

4. 研究成果

(1) 初等歴史教育におけるメタヒストリー学習とヒストリー学習の関連化

初等歴史教育におけるメタヒストリー学習では、児童による社会の中の歴史との関わりや取り組みにおいて根幹となって働く広義の歴史の見方を育むことが先ずもって重要である。但し、初等歴史教育において、メタヒストリー学習を単独で、すなわちヒストリー学習と切り離して別個に行うことは難しい。抑々、児童が過去や史料と、歴史とを区別するとともに、関係づけることができるようにするため、過去の見方や史料の見方の育成を踏まえつつ、歴史の見方を育成する必要がある。メタヒストリー学習の前提としてヒストリー学習を位置づけることが求められる。

初等歴史教育の各単元では、ヒストリー学習を先行させ、メタヒストリー学習を後続させ、ヒストリー学習で史料の見方と過去の見方を育てていくとともに、それを前提とするメタヒストリー学習で歴史の見方を育てていく。それは小学校中学年の歴史的内容項目から開始することができる。

〔主な関連業績〕

- ・服部一秀「小学校中学年社会科におけるメタ・ヒストリー学習の方略 ドイツ事実教授教科書の分析から」(日本社会科教育学会『社会科教育研究』140、2020年)
- ・服部一秀・神戸博貴・小笠原咲「社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成 小3『市の様子の変り変わり』をいかして」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』27、2022年)

- ・佐藤貴史・服部一秀「小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習 『県民の日』の授業」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』25、2020年)

(2) 中等歴史教育におけるメタヒストリー学習とヒストリー学習の関連化

初等歴史教育を踏まえた中等歴史教育の場合、各単元におけるメタヒストリー学習の位置づけ方として、2つのものが可能である。1つは、過去の事柄について取り組もうとするヒストリー学習中心の単元における付加的な位置づけである。過去の事柄に関するヒストリー学習を行った上で、その過去の事柄を扱った既存の歴史に関するメタヒストリー学習へ移行する。この場合、メタヒストリー学習は付加的なものになる。もう1つは、現在の社会の中の歴史について取り組もうとするメタヒストリー学習中心の単元における中核的な位置づけである。広義の歴史を分析検討するメタヒストリー学習のための一環においてヒストリー学習も行う。この場合、ヒストリー学習はメタヒストリー学習のための手段として行われる。

何れにおいても、既存の歴史の有り様を分析するメタヒストリー学習も、歴史の新たな在り方を判断するメタヒストリー学習も可能であり、それらでは既存の歴史の論理構造の分析、吟味検討や新たな形成のために議論の構造を用いることができる。広義の歴史のメタヒストリー学習をヒストリー単元において付加的に位置づけたり、さらにはメタヒストリー単元において中核的に位置づけたりすることにより、現在についての学習が可能となり、生徒にとって歴史授業は学習の意味や意義を見出しやすいものとなる。現実的に行いやすいのは付加的な位置づけであるが、より教育的効果が大きいのは中核的な位置づけである。

〔主な関連業績〕

- ・服部一秀「ドイツ中等歴史教育における現在との関連化 歴史文化学習の場合」(二井正浩編著『レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践 諸外国および日本の事例研究』、風間書房、2023年)
- ・服部一秀「メタヒストリー学習に基づく社会形成教育としての歴史授業」(社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究のブレイクスルー』、風間書房、2019年)
- ・服部一秀「歴史政策問題のヒストリー学習/メタ・ヒストリー学習に基づく歴史授業 ドイツの諸事例を手がかりとして」(二井正浩編著『レリバンスの視点からの歴史教育改革論 日・米・英・独の事例研究』、風間書房、2022年)
- ・服部一秀「社会に開かれた歴史教育はどうありうるか 歴史政策問題学習に基づく社会形成教育」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』26、2021年)
- ・服部一秀・関戸宏樹「歴史教育における博物館展示の新たな活用 メタ・パブリックヒストリー学習」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』25、2020年)

(3) 初等歴史教育におけるメタヒストリー学習の段階化

初等歴史教育においては、第3学年からヒストリー学習とともにメタヒストリー学習を開始し、それらを中高学年の学年進行にそって高めていくことができる。初等歴史教育のメタヒストリー学習では一貫して児童にとって身近な広義の歴史を取り上げ、指導上の重点課題を段階的に高めていく。

中学年の第3・4学年のメタヒストリー学習では、身近にある広義の歴史を分析させる。既存の歴史の論理構造を議論の構造に基づいて分析させることに主眼をおく。分析のレベルとして、第3学年では表現主体の目的のレベルまでを保障し、第4学年ではさらに表現主体を取り巻く社会的背景のレベルまでを保障する。第3学年で歴史という存在の構築性・人為性や意図性に気づかせた上で、第4学年では社会との関連性にも気づかせる。

高学年の第6学年のメタヒストリー学習では、身近にある広義の歴史の分析に取り組める機会だけでなく、吟味判断に取り組める機会も設ける。中学年の第4学年で歴史と社会との関連性を意識できるようにし、それによって橋渡しをすることにより、高学年の第6学年では社会的背景のレベルでの分析を保障する。とともに、さらに議論の構造に基づく広義の歴史の論理構造の分析を踏まえて吟味検討や新たな形成にも取り組めるようにする。第6学年でも自分たちの社会における既存の歴史の有り様を認識する学習に比重をおくとしても、社会にとっての在り方を判断する学習までメタヒストリー学習の射程を広げる。

〔主な関連業績〕

- ・服部一秀・神戸博貴・佐藤貴史・菊島咲「小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習の重点課題 中高学年を通しての段階的展開」(『山梨大学教育学部紀要』33、2023年)
- ・服部一秀・神戸博貴・小笠原咲「社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成 小3『市の様子の変り変わり』をいかして」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』27、2022年)

(4) 中等歴史教育におけるメタヒストリー学習の段階化

中等歴史教育におけるメタヒストリー学習の位置づけ方は大きく3つのタイプに分けられる。1つ目は、後期中等歴史教育の特定の単元のみ配置するタイプである。それまでの前期・後期中等歴史教育における過去についてのヒストリー学習を前提にし、過去について十分に学んだ上で、メタヒストリー学習に取り組ませる。2つ目は、前期・後期中等歴史教育においてメタヒストリー学習をいくつかの単元に散発的に配置し、前期中等歴史教育のメタヒストリー学習

では広義の歴史の分析に重点をおき、後期中等歴史教育のメタヒストリー学習では分析を踏まえた吟味判断にも取り組ませるタイプである。分析面に比重があり、その学習を先行させ、その発展として判断面にも取り組ませ、学習を拡げる。3つ目は、前期・後期中等歴史教育を通してメタヒストリー学習を多くの単元に配置し、広義の歴史の分析と吟味判断を一貫して求めつつ、前期中等歴史教育から後期中等歴史教育への移行において分析と吟味判断を質的に向上させていくタイプである。広義の歴史の在り方を問うことで社会の在り方を問う取組を段階的に高めていく。

1つ目のタイプは現実的ではあるけれども、メタヒストリー学習の導入による教育的効果は限定的である。2つ目のタイプでは、メタヒストリー学習の働きは社会認識の教育から、それを一環とする社会形成の教育へ広がっていくのに対し、3つ目のタイプでは、社会認識とそれを踏まえた社会形成の教育としての働きがカリキュラム全体を通して高まっていく。

〔主な関連業績〕

- ・服部一秀「ドイツ中等歴史教育における現在との関連化 歴史文化学習の場合」(二井正浩編著『レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践 諸外国および日本の事例研究』、風間書房、2023年)

(5) 初等・中等歴史教育におけるメタヒストリー学習の授業開発

本研究では、研究課題を解決するための方法として、分析的研究とともに開発的研究にも取り組んだ。開発的研究においては、初等・中等歴史教育におけるメタヒストリー学習のため、5つの授業の開発を行った。

初等歴史教育では、第3学年「わたしたちの市の現在・過去・未来」、第4学年「受けつがれる地域づくり」、第6学年「県民の日」、中等歴史教育では、「明治の日の是非」、「山梨県立博物館が語る歴史」の授業開発を行った。第6学年単元「明治の国づくりを進めた人々」の一部として開発した「県民の日」の他は、単元の開発である。社会の中の広義の歴史を分析する学習、さらに吟味判断する学習の可能性について、記念行事、歴史祭り、記念日(地域レベル、国レベル)、博物館展示について取り組むメタヒストリー学習の授業事例開発によって具体的に示した。

〔主な関連業績〕

- ・服部一秀・神戸博貴・小笠原咲「社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成 小3『市の様子の変り変わり』をいかして」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』27、2022年)
- ・服部一秀・神戸博貴・佐藤貴史・菊島咲「小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習の重点課題 中高学年を通しての段階的展開」(『山梨大学教育学部紀要』33、2023年)
- ・佐藤貴史・服部一秀「小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習 『県民の日』の授業」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』25、2020年)
- ・服部一秀「メタヒストリー学習に基づく社会形成教育としての歴史授業」(社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究のブレイクスルー』、風間書房、2019年)
- ・服部一秀・関戸宏樹「歴史教育における博物館展示の新たな活用 メタ・パブリックヒストリー学習」(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』25、2020年)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 -
2. 論文標題 ドイツ中等歴史教育における現在との関連化 - 歴史文化学習の場合 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 二井正浩編著 『レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践 - 諸外国および日本の事例研究 - 』（風間書房）	6. 最初と最後の頁 145-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀・神戸博貴・佐藤貴史・菊島咲	4. 巻 33
2. 論文標題 小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習の重点課題 - 中中学年を通しての段階的展開 - https://yamanashi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5268&item_no=1&page_id=30&block_id=67	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『山梨大学教育学部紀要』	6. 最初と最後の頁 53 - 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀・神戸博貴・菊島咲	4. 巻 27
2. 論文標題 社会科開始学年におけるヒストリー学習・メタヒストリー学習の構成 - 小3「市の様子の移り変わり」をいかして - https://yamanashi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=5131&item_no=1&page_id=30&block_id=67	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター 『教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 117-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 -
2. 論文標題 歴史政策問題のヒストリー学習 / メタ・ヒストリー学習に基づく歴史授業 - ドイツの諸事例を手がかりとして -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 二井正浩編著 『レリバンスの視点からの歴史教育改革論 - 日・米・英・独の事例研究 - 』（風間書房）	6. 最初と最後の頁 187-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 26
2. 論文標題 社会に開かれた歴史教育はどうありうるか - 歴史政策問題学習に基づく社会形成教育 - https://yamanashi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4955&item_no=1&page_id=30&block_id=67	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター『教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 140
2. 論文標題 小学校中学年社会科におけるメタ・ヒストリー学習の方略 - ドイツ事実教授教科書の分析から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本社会科教育学会『社会科教育研究』	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀・関戸宏樹	4. 巻 25
2. 論文標題 歴史教育における博物館展示の新たな活用 メタ・パブリックヒストリー学習 https://yamanashi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4710&item_no=1&page_id=30&block_id=67	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴史・服部一秀	4. 巻 25
2. 論文標題 小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習 「県民の日」の授業 https://yamanashi.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4724&item_no=1&page_id=30&block_id=67	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』	6. 最初と最後の頁 227-244
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 -
2. 論文標題 21世紀の教育において教科等はどうな役割と意義を果たすのか：教科の現代的意義 (5)ドイツ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教科とその本質（日本教科教育学会編） 教育出版	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 720
2. 論文標題 社会科は社会とどのように関わるのか：民主主義社会形成に開かれた批判的政治的判断の形成	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育科学社会科教育 明治図書	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部一秀	4. 巻 -
2. 論文標題 メタヒストリー学習に基づく社会形成教育としての歴史授業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会系教科教育学研究のブレイクスルー（社会系教科教育学会編） 風間書房	6. 最初と最後の頁 217-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 服部一秀・神戸博貴・佐藤貴史・菊島咲
2. 発表標題 小学校社会科におけるメタ・ヒストリー学習の重点課題 - 中中学年を通しての段階的展開 -
3. 学会等名 社会系教科教育学会第33回研究発表大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 服部一秀・神戸博貴・小笠原咲
2. 発表標題 社会科開始学年における歴史学習・メタ歴史学習の構成 ー小3「市の様子の移り変わり」をいかしてー
3. 学会等名 社会系教科教育学会第32回研究発表大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 服部一秀
2. 発表標題 社会に開かれた歴史教育はどうありうるか - ドイツでの歴史授業観察から -
3. 学会等名 社会系教科教育学会第31回研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 服部一秀
2. 発表標題 小学校社会科におけるメタ・パブリック歴史のスタート学習 ドイツの事例を手がかりにして
3. 学会等名 社会系教科教育学会第31回研究発表大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	神戸 博貴 (KOBE Hiroki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 貴史 (SATO Takashi)		
研究協力者	菊島 咲 (KIKUSHIMA Saki)		
研究協力者	関戸 宏樹 (SEKIDO Hiroki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関